

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 20 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20520197

研究課題名 (和文)：20 世紀における人形浄瑠璃の総合的研究

研究課題名 (英文)：A comprehensive study of Bunraku (Joruri Puppet Theatre) in the 20th century

研究代表者：

細田 明宏 (HOSODA AKIHIRO)

帝京大学・文学部・准教授

研究者番号：20412801

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：人形、浄瑠璃、文楽、演出、近代日本、芸談、演劇

1. 研究計画の概要

本研究は、20 世紀以降(明治期後半～現代)の人形浄瑠璃について、異なるアプローチをとる研究者が連携して調査・研究を総合的に展開することにより、現代における人形浄瑠璃の諸問題を解明するとともに、後継者育成問題や文化財保護などの社会的要求にも応じようとするものである。

2. 研究の進捗状況

(1) 研究会を開催した。各自は研究会および学会で口頭発表を行い、研究成果を論文としてまとめ、発表した。

①代表者の細田は、「歌舞伎『壺坂霊験記』における早替り一悪者雁九郎のゆくえ」(『演劇学論集』48、2009)などの論文を執筆し、「文楽式人形操法の成立について」(美学会、2009 年 10 月 10 日)などの学会発表を行った。

②後藤は、編著書『近代日本における音楽・芸能の再検討』(京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター発行、2010)を出版した。本書には細田も寄稿している。また共著書『近松再発見—華やぎと哀しみ』(神戸女子大学古典芸能研究センター編、大阪・和泉書院、2010)を出版した。

③分担者の久堀は「浄瑠璃五段構成の衰微と淡路座」(岩波書店『文学』第 12 巻第 2 号、2011)を発表した。

(2) 地方人形座に対する調査を行った。

①平成 21 年度には、新潟県佐渡を中心に活動する地方の人形座に対する共同調査を行った。協力者(藺田郁)に依頼するなどして予備的な調査をした上で、細田と後藤が稽古および公演の調査、演者へのインタビュー調査などを行った。佐渡の人形座については藺

田が継続して調査を行った。

②細田は、地方人形座において近年制作された新作浄瑠璃について調査した。

(3) 聞き取り調査を行い、その成果を発表した。

①細田は、文楽の制作についてのインタビューを継続して行っているが、その一部を「文楽人形遣いの修業と配役—後藤静夫氏に聞く文楽の制作」(『帝京大学文学部紀要 日本文化学』42、2011)としてまとめた。

②後藤は、文楽座演者に対するインタビュー調査の成果として、「文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る—その 1 竹本伊達大夫」(『日本伝統音楽研究』11、2011)を発表した。

(4) 近世期に成立した『操曲入門口伝巻』の講読を行った。

(5) 分担者の澤井は東京の人形浄瑠璃に関する資料調査を行い、その成果を用いて口頭発表を行った。

(6) 研究成果を生かし、社会的な活動を行った。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

- ・当初の計画はおおむね順調に遂行できている。

- ・計画時には想定していなかった近世期の資料である『操曲入門口伝巻』の講読を開始した。また近世文学を専攻する久堀裕朗氏に分担者と加わってもらい、研究を進めた。

- ・新潟県佐渡の人形座の調査を開始したが、これも当初の計画にはなかったものである。調査は、主として研究協力者である藺田郁氏(大阪大学大学院)が当たった。

4. 今後の研究の推進方策

当初の研究計画通り、報告書の作成を目指す。共同研究および、各自の研究成果をまとめ、公刊する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

1. 細田明宏、文楽人形遣いの修業と配役—後藤静夫氏に聞く文楽の制作、帝京大学文学部紀要 日本文化学、第 42 号、185-220、2011、査読無し

2. 後藤静夫、文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る—その 1 竹本伊達大夫、日本伝統音楽研究、第 11 号、67-91、2011、査読なし

3. 久堀裕朗、浄瑠璃五段構成の衰微と淡路座、文学(岩波書店)、第 12 巻第 2 号、112-125、2011、査読なし

4. 細田明宏、勝彦蔵の歌舞伎『西国三拾三所観音霊験記』—趣向と題材、帝京大学文学部紀要 日本文化学、第 40 号、179~215、2009、査読無し

5. 細田明宏、歌舞伎『壺坂霊験記』における早替り—悪者雁九郎のゆくえ、演劇学論集・日本演劇学会紀要、第 48 号、31-58、2009、査読有

[学会発表] (計 3 件)

1. 細田明宏、文楽式人形操法の成立について、美学会、2009 年 10 月 10 日、東京大学

2. 細田明宏、文楽式三人遣い操法の成立について—浄瑠璃との結びつきに注目して、日本演劇学会、2009 年 6 月 27 日、大阪市立大学

3. 細田明宏、歌舞伎『壺坂霊験記』における早替り—悪者雁九郎のゆくえ、近現代演劇研究会、2008 年 7 月 26 日、大阪大学

[図書] (計 2 件)

1. 『近代日本における音楽・芸能の再検討』(後藤静夫編著、共著者に細田明宏、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2010)

2. 『近松再発見—華やぎと哀しみ』(神戸女子大学古典芸能研究センター編、共著者に後藤静夫、大阪・和泉書院、2010)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

(1) 研究成果について、下記で公開している。

<http://www9.ocn.ne.jp/~hosoda/>

(2) 研究成果を生かした社会活動を行った。

1. 代表者である細田明宏は、日本芸術文化振興会(国立劇場)の舞台芸術教材選考委員を委嘱され、活動した(平成 22 年度)。

2. 分担者である後藤静夫は、次のような活動を行っている。

・四国地方の S 人形座(県指定無形民俗文化財)に対する演技指導(平成 20~22 年度)

・知立市文化会館公演「山車文楽とからくり」解説・司会(2010 年 7 月 4 日)

・NHK 教育テレビ『芸能花舞台』解説出演(2010 年 9 月 17 日「伝説の至芸・二世桐竹勘十郎」)

・第 3 回市町村文化行政ネットワーク会議(愛知県)「地域の文化資源を活かす」基調講演並びにコメンテーター(2011 年 1 月 28 日、刈谷市総合文化センター)

3. 分担者である久堀裕朗は、下記の報告書作成に携わった。

・引田家資料調査委員会編『引田家資料調査報告書』(引田家資料調査委員会、2011 年 3 月)において、「浄瑠璃本目録」(写本担当)・「淡路座上演作品解題」(解題 14 項目担当)・『朝顔日記』五段目翻刻』を執筆

・大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター報告書『日中伝統芸能交流会報告書』(大阪市立大学、2011 年 3 月)において、2010 年 10 月の日中伝統芸能交流会における高等発表を元に『伊賀越道中双六』の上演史』を執筆